



学院史編纂室便り

NO. 48 (2018.11.30)
関西学院大学 学院史編纂室

★ラトビア製低反射ガラスを使った展示ケースの寄贈

株式会社大伸社副社長上平豊久さんが、ラトビア共和国建国百年を記念し、同国と縁の深い関西学院にラトビア製低反射ガラス(グローグラス社製)をご寄贈くださいました。お申し出を受けた大学博物館では、常設展示している原田の森と上ヶ原のジオラマ・カバーの制作をお願いしました。7月24日、新しいカバーへの交換が完了しました。グローグラス社のガラスは大変優秀で、中の展示物が鮮明に見えます。ヨーロッパ中の美術館や博物館で採用されているそうです。



★追手門学院との交流

本年3月に発行した『関西学院史紀要』第24号を分けてほしいとのお申し出を追手門学院理事長・学長室から受けました。早速お送りしたところ、胸永等専務理事をはじめ8名が7月26日に関西学院をお訪ねくださいました。同紀要にインタビューを掲載させていただいた齋藤昭さん(1940年高等商業学校卒業、1942年商経学部卒業)が同学院名誉理事(元理事長)でいらしたことから生まれた嬉しいご縁でした。齋藤さんご自身に田淵結院長、多田義治同窓会常任理事等と共に、齋藤さんの恩師のお住まいだったベーツ館でご一行をお迎えし、自校史教育に関する情報交換など有意義なひと時を持ちました。



11月7日、追手門学院は創立130周年を、齋藤さんは満100歳の誕生日を迎えられました。

★中学部生徒会図書部の文化祭展示発表「日本昔ばなし」



文化祭(11月3日開催)の展示準備ため、中学部生徒会図書部員が顧問の河野隆一教諭と共に、6月1日、学院史編纂室に来られました。その時、閲覧・複写されたのは「日本のアンデルセン」と呼ばれた久留島武彦関係資料でした。収集された資料はどのように使われたのでしょうか。文化祭の2日前、展示制作中の様子を見学させていただきました。

まず、展示のスケールの大きさとアイデア、裏付け資料の丁寧な扱いに驚かされました。図書館入口の装飾をただで、ワクワク感が高まります。中に入ると、天井から吊り下げられた大きなバナー「昔ばなし」と関学

しと関学 関西学院創立時の学生が、日本昔ばなしを広めることによって、宝塚歌劇がはじまった？」に釘付けになりました。45人の生徒たちが一つの目的に向かって創意工夫し、集中する姿にも感動しました。21世紀の可愛い後輩たちが自分の生涯に関心を寄せ、文化祭で発表してくれた様子を天国の久留島はどのような思いで見守っていたことでしょう。(なお、次に紹介する第51回関西学院史研究会と関連しますが、『赤毛のアン』の翻訳にあたり、村岡花子は久留島の指導を受けました。)



★第51回関西学院史研究会の開催(共催:日本カナダ学会関西地区) *申し込み不要、一般参加歓迎

日時: 12月6日(木) 11:10~12:40

場所: 大学図書館ホール(西宮上ヶ原キャンパス)

演題: 「カナダ・ミッション 婦人宣教師の視点から見た日加関係」

講師: 松本郁子(東洋英和女学院史料室、東京大学大学院博士課程在学)

*松本さんは、学院資料・村岡花子文庫展示コーナーの企画・設営にも携わってこられました